

# 令和7年度(2025年度) 各部署重点目標と達成方法

## 中学1年

### 目標① 安全・安心で楽しい学校生活に向けての環境づくり

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

これからの6年間の学校生活が安全で安心で、楽しいものとなるための方策として、

- ① 自分の言動に想像力を働かせる
- ② 他人を傷つける行為はしない
- ③ コミュニケーションによるトラブルについてのガイダンス
- ④ SNSについてのトラブル

これらについて、集会、道徳、LHR、SHR等様々な場面で繰り返し伝えていく。

- ⑤ 生徒との信頼関係、保護者との信頼関係構築に努力する。
- ⑥ 教員間で生徒情報を共有し、学年団が協力して諸問題に取り組む。

### 目標② 気品と思いやり、責任感の養成

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

気品と思いやりのある女性の育成という本校の教育目標を達成するため、

- ① クラスでの役割、仕事を自覚させ、責任をもって務められるように指導する。
- ② 孤立しがちな生徒に対して、目配り心配りができるクラスの雰囲気醸成する。
- ③ 無神経な行動を戒め、6年間でしっかりしたマナーを身につけさせる。
- ④ 学年の雰囲気として、「元気で明るく爽やかに」を醸成するため、学年団教員が手本を示していく。

### 目標③ 成績不振者への対応と全体の学力向上・教訓帰納の実践

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- ① 成績不振者への対応として、その原因を把握し、適切に対応する。
  - ・能力はあるが、やる気がない生徒への対応
  - ・能力が低く、自信のない生徒への対応
  - ・生活一般にだらしく、提出物に問題のある生徒への対応など
- ② 中学1年生では国語と英語を伸ばすため、朝の10分の取り組みとして、遊びやゲーム形式の教材を与え、楽しみながら取り組む。
- ③ メモの多用と活動メモの記録、振り返りの身体化
- ④ 成績上位者のやる気を刺激するような取り組みを考える。

## 目標① 学力向上に向けて

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- ・授業を大切にし、生徒自らが率先して学べるような授業展開を学年で意識していく。
- ・生徒が自ら問を立て、解決に向けて考えていく力を養えるようにサポートをしていく。
- ・朝学習において、週3日は英数国の知識の定着を図るもの、週2日は英語の自学自習プログラム、週1日は読書と固定することにより、生徒が学習スケジュールを立てやすいようにする
- ・スコラ手帳や考查の計画表、考查の範囲表・模試の範囲表などを活用し、計画的に学習に取り組み、また振り返りまでできるようにしていく。
- ・模試や考查受験後に、振り返りを行って自分の強みや弱点などを知ることにより、次回へ活かせる仕組みづくりを行っていく。
- ・学年ガイダンスや学年通信を通じて、学習する目的や方法を生徒に伝えていく。

## 目標② 自己理解と他者理解を深めて、社会理解ができるようになる

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- ・道徳やLHRの授業、行事を通じて、自己理解(自分自身の気持ちや将来について)を深めていく。
- ・キャリア教育を進める上で、将来について様々な職種を知ることにより、自身の目指す将来像を築いていく。
- ・自己理解をした上で、他者との付き合い方を学び、コミュニケーション能力を培っていく。
- ・社会の一員であることを認識し、社会マナーを守れるように、そして後輩たちの見本になれるような学校生活を送れるように意識をさせられるような声かけをしていく。
- ・自己理解、他者理解ができるようになり、視野を広げていけるようになった上で、学校行事をベースに社会問題解決や国際問題について考えて、他者と協力をしながら問題解決できるようにしていく。

## 目標③ 情報社会におけるICTの活用をしていく

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- ・学校活動において、生徒と教員がともにICTを活用してよりよい学校活動ができるように整備していく(ロイロノート、manabaの活用)
- ・保護者への情報発信として、manabaを活用して行っていく。(情報の内容によってわかりやすいように整理していく)
- ・中学生としての適切なインターネットの活用方法を守れるようにしていく。生徒自身がルールを考えて、なぜそのルールがあるのか理由をもとに守れるようになっていけるように様々な機会を通じて考える機会を設けていく。(インターネットリテラシー、SNSの危険性などを教えていく。)

## 目標① 学力向上に向けて

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- (1)大学受験に対応できる基礎力の完成を目指し、各種検定の取得。また、英語力の向上を目指し、4技能の向上に向けて取り組む。  
⇒定期考査・朝学習での目標を設定し、基礎的な力の振り返りができるものに取り組みさせる。  
各種検定の受検・各種プロジェクトへの参加を促し、学年全体として生徒自身の挑戦の機会を用意する。  
Weblio studyを活用する。
- (2)キャリア教育を通じて、進路実現に向けて自ら考え、計画を立てさせる。計画を確実に実行できる生徒を育成しつつ、学習へのモチベーションを上げていく。  
⇒スコラ手帳を活用し、自学自習の習慣の記録、振り返りができるように継続して指導していく。  
各種検定結果・各種行事(進路ガイダンスを含む)・様々な活動やプログラムへの振り返りをスタディサプリの活動メモに保存し、達成感・自己肯定感を高めていく。

## 目標② 生きる力育成に向けて

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- (1)基本的な生活習慣を身につけ、心身の健やかな成長を促す。  
⇒時間厳守などけじめのある生活は、進路実現に向け規則正しい生活習慣が大切であることを意識させる。
- (2)よりよい社会に貢献する人として生きていくために必要な基本的な作法・礼儀を身につける。  
⇒「日常の五心」の実行、爽やかに挨拶など周囲との関わりを大切にするために必要なことを指導していく。  
また日常生活からだけでなく、各行事やキャリア教育活動において、大学生や社会人の方との関わりの中から、社会生活を円滑に送るスキルを体験し、基本的な作法・礼儀の実践が自然にできるように指導していく。
- (3)自己肯定感を持ち自分自身を大切にするとともに、周囲にも寄り添うことのできる心を育てる。  
⇒校内外の活動において、道徳教育やピア・サポート教育を通して学んだ知識を活かし、お互い協力しながら豊かな心を養っていく。

## 目標③ 学校教育環境整備と質向上に向けて

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- (1)ICTリテラシーを理解し、ICTを適切に活用する力を養う。  
⇒中学生として制限される中で、SNSの危険性・リスク等を理解しながら、ICT使用のルールを守り、高校生から活用できるように指導していく。
- (2)保護者と学校で連携し、両者で生徒の成長をともに見守れるような信頼関係を築く。  
⇒学校評価を実施し、取り組みについての改善・改革を行い、教育活動の向上を図っていく。  
学年・学級通信やお知らせをmanabaで積極的に活用し、活動報告・情報公開を進めていく。

## 目標① 主体的な学習者を育てる積極的な支援

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

## ①学力向上に向けて

- ・各種検定(英語・数学・国語)において、学年目標級の取得を明確に設定し、計画的に支援する。
- ・朝学習、夏期・冬期講習、放課後延長学習など、多様な学習機会を提供し、個々の学習スタイルに応じた学力向上を図る。

## ②生徒の主体性・自主性を高めていく

- ・手帳等を活用し、定期考査・模擬試験に向けた計画立案・実行・振り返りの習慣を確立し、自己調整学習の力を養う。
- ・進路実現に向け、中長期的な目標と短期的目標の連動を意識させ、小さな成功体験を通じて達成感を体感させる。

## ③自己肯定感を高め、自己表現を豊かにする

- ・スピーチやプレゼンテーション活動等を通じて、自分の考えを他者に伝え、認められる経験を数多く提供する。
- ・自分の強み・関心領域を見出し、校内外のプログラムやコンテスト等への参加を一層促進し、探究的な学びを深めさせる。

## 目標② 地球市民の一員として貢献するキャリア構築

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

## ①グローバルな視点とローカルな実践を結び付ける

- ・GSTや教科学習、課外活動を通じて、社会課題への関心を深め、地域社会および地球規模の問題に主体的に関わる意識を育む。
- ・探究活動の中で、地球規模の課題と自己とのつながりを意識させ、持続可能な社会の担い手としての自覚を育てる。

## ②将来への学びと進路選択への支援

- ・文理選択や自己分析を通して、自分の特性と社会貢献を重ね合わせ、地球市民としてのキャリア像を考える機会を提供する。
- ・各種のキャリアガイダンスを実施し、志望進路の実現に向けたサポートとともに、多様な進路選択肢に触れる機会を提供する。

## ③国内外の大学入試向けの支援

- ・国内外の様々な大学入試に関する最新情報を提供し、個別の進路希望に応じた支援を行う。
- ・講演会、説明会、面談等を定期的に実施し、生徒自身が納得して志望校を決定できるよう導く。

## 目標③ 自立に向けた生活環境と自己肯定感の向上

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

## ①自立心・自律心を育む

- ・周囲への思いやりを大切に、規範意識を高め、高校生としてふさわしい行動が取れるよう日常生活からできることを考え、取り組ませていく。

- ・校内外の活動を通じて、学年や立場に応じた責任感を持ち、他者と協働・サポートする機会を提供する。

## ②自主性・主体性を尊重し、自己肯定感を高める

- ・各学校行事において、多様性を尊重しながら共感と連帯感を育てるような活動設計を工夫する。
- ・各種活動を通して、自分の強みに気づき、他者との関わりで自分の存在価値と他者への配慮の重要性を実感できる体験を積ませる。

## ③教育環境の充実と安全性

- ・国内外の提携機関と連携し、先進的な情報や手法を本校の取り組みに反映、活用していく。
- ・ICT環境のさらなる充実とともに、その危険性・モラル教育も並行して行い、情報社会にふさわしい活用能力を育成する。

## 目標① 大学入試に対応するための学力向上

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- ・全員が一般選抜で大学入試に臨めるよう、共通テストに対応できるレベルの学力を定着する  
→各科目の授業内で問題演習を増やしていくと同時に、夏期講習などで自分が伸ばしたいと考えている科目について実戦的な力を定着する。
- ・自学自習の習慣を確立する  
→朝学習や放課後延長学習など、学校で自習するための時間と場所を確保し、全員が受験生として互いに刺激し合う雰囲気涵養する。
- ・主要三科目と理社を優先順位をつけて対策  
→最優先の英語については、妻中タイムや外部検定対策を活用し、学年を挙げて取り組む。他の科目については、授業、定期考査、模試、講習を軸として力を着けていく。

## 目標② 社会問題の解決と進路実現を関連付ける

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- ・地域、日本から世界に関するものまで、社会が抱える様々な課題にアンテナを巡らせ、その解決のために何ができるか、そのために将来自分はどう関わられるかを考える。  
→探究やGISといった課題探究型の授業において、社会と進路について関心を高める。  
→GSTや文化祭といった課外活動によって、授業とは異なるアプローチで社会の見方を身につける。
- ・進路選択において、明確な根拠を持って大学・学部を選べるようになる  
→偏差値や評判という他人軸ではなく、自分軸で進路を選択するためにガイダンスや面談を活用する。

## 目標③ 学習環境を整備する

## ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- ・ICT環境の整備により、迅速な連絡や情報共有を可能にする  
→manabaやロイロノートを活用し、どこにいても情報を入手できるようにすることにより、勉強に集中できる環境を作る。
- ・部活動や各種課外活動と勉強の両立を実現する  
→放課後延長学習や幅広い講習などを準備することで、生徒のニーズに応じた学習環境を提供できるように尽力する。

目標① 生徒一人一人が希望する大学に合格できるように、ガイダンスや講習を充実させる。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- (1)模試分析結果を学年で共有し、生徒個々の弱点を把握し、次の模試に備えさせる。
- (2)外部機関のデータを模試ごとに分析し、学年全体の模試偏差値推移に関して、保護者・生徒・教員の3者で共有するようにする。
- (3)外部機関のガイダンスや進路ガイダンスの充実を図り、受験意識を高めるようにする。
- (4)夏期講習や冬期講習の講座数・講座内容を吟味し、弱点克服の体制性を強化する。
- (5)大学ツアーを企画し、受験意識を高めるのと同時に、オープンキャンパスでは見られない日常の大学生生活を体感させる。
- (6)保護者対象のガイダンスの充実をはかるために、対面で新たな進路ガイダンスを計画・実施する。

目標② 生徒自らが積極的に学習に取り組めるような環境を整備する。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- (1)集中して学習する習慣を確立させるための自学自習環境を提供する。
- (2)夏期に勉強合宿を企画し、自学自習による受験勉強する環境を充実させるのと同時に、質問や進路相談講習などが随時できるように引率教員も多くし実施する。
- (3)受験に対するメンタル的影響について、担任面接・学年主任面接やガイダンスを通して個々の生徒に対応していく。

目標③ 集団における自己責任能力の育成と多角的思考力の向上を目指す。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- (1)「常に前向きな思考を持つこと」「物事を客観的に分析しポジティブ思考を持って行動する事」が、進路決定や日常生活にプラスの影響を与え、「悲観的な発言をすること」は集団においてマイナスの影響を与えることを理解させるために、具体的な例も上げ、学年の教員が統一して生徒に伝える。
- (2)学年全体で受験を乗り切れるように、生徒の結束を図るような、企画や言葉がけを心がける。
- (3)受験生としての振る舞いや行動について、自ら考え行動できるように、線路を引いたような指導ではなく、ガードレールの役割ができるような指導を心がける。
- (4)色々な入試形態について例を挙げて説明することにより、多角的に検討した結果の進路希望先になるように心掛ける。



# 令和7年度(2025年度) 各部署重点目標と達成方法

## 国語科

目標① 各学年または到達段階に応じた国語の力を生徒に身につけさせる。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

・漢字テストや単語テスト、文法テストなどの小テストを定期的実践する。また、読書や副教材、プリント等を用いた課題(宿題)を理解度に応じて提供し、活用することで、家庭学習においても自発的に国語の学習に取り組めるようにする。

・中学段階では「総合」の時間や、読書指導、古典作品(百人一首)の暗唱などの活動を通じて文章や言葉に常に関心を持たせていく。高校段階では、小論文指導を通して文章の表現力を身につける。

・中学段階から国語に対する関心興味を持ち、論理的に物事を考え、理解するための言葉や文章を身につけ、基礎力の充実を図る。高校段階では、現代文を通じて現代のさまざまな問題に対して多角的な見方や考え方がることを知り、広い視野のもと、物事を考えられるようにするとともに、自分の考えを筋道立てて表現できるようにする。

・古典を通じて歴史や文化の特色を理解するとともに、文法や句法の分析を通じて読解を深め、問題を解決できる力を養成する。

目標② 生徒が積極的に国語の学習に取り組める授業を実践する。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

・授業では、音読の機会、発問の機会、発表や発信の機会をできるだけ多く増やし、受け身ではなく主体的に授業に参加させていく。(特に、個人・グループ・クラスでの学習内容の振り返り作業を中心とした、教訓帰納に基づく教科指導に力を入れる)

・多種多様な文章を多く取り上げて扱うことで、読解力や表現力の基本となる多くの語彙やさまざまなものの考え方や感じ方に触れさせ、習得させていく。

目標③ ICTの活用および音声教材、映像教材を取り入れた五感を刺激する授業を実践する。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

・教員間で密に連携しながら授業研究を深めるとともに、授業見学なども積極的に行う。また、電子黒板・manaba・LOILOノート・スタディサプリ等のICTの積極的な活用を試みながら、生徒同士の意見や発言のアウトプットを促す。

・学年に応じた課題量の調節をしつつ、生徒が取り組みやすい環境作りや能動的な学習を促す機会を設ける。

・特に中学では学年内の他教科と連携して、課題量を生徒の負担になりすぎないように勘案する。

目標①	授業の質の向上
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>・一方向の授業ではなく、双方向なやり取りが行えるよう「教え合い」や「発表」の機会を積極的に設け、生徒の主体的かつ協働的な活動を促す。</p> <p>・研究授業や授業見学を積極的に行い、授業後に意見交換を行うことで、科としてのスキルアップを図る。</p>	
目標②	基礎学力の定着および応用力・探究力の育成
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>・MMTや小テストをこまめに実施する。合格点を設け、不合格者には丁寧に指導していく。</p> <p>・外部模試を検証し、各学年の傾向や弱点を把握し、講習等を用いて対策していく。</p> <p>・テーマ別の講習を学年横断で実施するなど、上位者向けの講習を充実させる。</p> <p>・自らテーマを決め、答えのない課題に対して周囲を納得へと導く「納得解」を探究しアウトプットできる力を養う。</p> <p>・振り返りシート等を用いて自身の定着度を見える化し、課題を自分で認識できるよう働きかける。</p>	
目標③	変わりゆく大学入試への適切な対応
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>・大学の入試問題を解き、教科で研究し情報共有する。</p> <p>・全教員で各定期テストを研究し、変わりゆく大学入試に適しているかどうかなど、質の向上を行う。</p> <p>・研修などに参加し、教科で情報を共有する。</p>	



# 令和7年度(2025年度) 各部署重点目標と達成方法

## 外国語科

### 目標①

基礎基本事項の定着を図ると同時に、英語をツールとして使用し、様々な情報を得る力、自分の興味関心・考えなどを発信する力を養う。

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- 基礎基本事項の定着を図る取り組みとして、授業中の小テストおよび不合格者に対する追指導を継続的に実施する。中学の初期段階で望ましい英語学習の習慣・方法を身につけるべく、学年間の連携・チューター等の活用も積極的に図っていく。
- 英語の知識を運用力として定着させるために、スピーキングやライティングを中心としたアウトプット活動を全学年を通して段階的に実施する。
- 英会話の授業とのタイアップを積極的に図り、ペアワークやグループワークなど、外国語での多様な言語活動を授業に取り入れることにより、外国語を積極的に使ってコミュニケーションを図るスキルとマインドセットを養う。
- これらの取り組み内容を教科会で共有・検討して、6カ年の新たなグランドデザインを構築する。

### 目標②

探求的学習の要素を軸に、受動的学習から主体的学習への切り替えを促し、自ら積極的に学ぼうとする学習者の育成を目指す。

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- 「探求的学びのスタイル」を取り入れた学習シラバスに基づき、授業の中で探求的学習の要素(調べ、発表し、深める)を可能な限り取り入れる。他教科の教員との協力を進め、教科間の連携(クロスカリキュラム)を積極的に図る。
- スピーチ、ポスターセッション、プレゼンテーション等の発表の機会を通じて、英語で効果的に発表するための技術や方法を学ぶ。また、自分の意見を発表する経験や、レポート・エッセイ等にまとめる経験を通じて、クリティカル・シンキング、ロジカル・シンキング等の論理的な思考力を高める。
- 研究・成果発表の場を設け、授業や課外学習などにおいてフィードバックできる機会を設定する。

### 目標③

4技能をバランスよく育成し、実践的な英語運用力の測定と検証を継続的に行う。

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- 英語検定の学年取得目標値を設定し、その達成に向けた指導を実施する。
- 進路実現も見据えて、英検・TEAP・GTEC・IELTS・仏検・DELTA等の4技能試験の積極的な受験を促進する。
- ELST、Weblio Study、スタディサプリ等のツールを積極的に活用し、自宅学習における日常的なトレーニングや、検定試験対策として4技能を総合したタスクに取り組むことにより、4技能のスキル別強化や個別最適化を図る。
- GTEC(中2・中3・高3)、TEAP(高1・高2)の全員受験による結果をもとに、経年で検証を行い、指導に活かしていく。

目標①	自主的な学習に向けた土台づくり
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>授業において、学習に対し生徒が自主的に取り組めるようになるきっかけをつくる。 また、学習の方法を自分自身で考えたながら進めていけるよう、授業者側が工夫をしていく。 具体的にはノート、プリントの取り方、まとめ方の方法を複数提示し、その中から生徒が自分の意志で、 取り組み方を選択していく形をとる。 自分の意志で選択できる形をとることと、自身にとって効果的な学習方法を知ることによって自主的な学習にむけた土台をつくっていく。</p>	
目標②	探究学習を通じた主体性の教科
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>調べ学習、ディベート、プレゼンなど探究要素を含む取り組みを授業に組み込む。 また外部のコンテスト、コンペティションなどに参加できるきっかけを用意する。 上記の取り組みを行う際は、調べ方、まとめ方、話し方など、探究学習を進めるにあたり、 実践的な技能について教科担当から伝える。</p>	
目標③	受験学力の養成
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>一般選抜の合格に向けた教科指導を行う。 教科担当者は過去問などの出題傾向の把握に努め、それを授業に還元していく。 受験学力を養成できるよう、教科担当者は絶えず授業力の向上を目指す。 特に新課程により導入された科目については、情報を収集し効果的な授業実践を工夫する。 また、各講習を充実させ平常の授業に加え、問題演習や入試特化の対策を講じることにより、 学力向上の場を用意する。</p>	

# 令和7年度(2025年度) 各部署重点目標と達成方法

## 理科

### 目標①

生徒が理科に興味関心を抱き、主体的に学習するような授業を計画し、基礎学力の定着および成績向上をはかる。

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

中学校の学習カリキュラムを学ぶ中学1、2年生は主体的に学習を行える基礎作りのため、実験・実習を数多く取り入れる。高等学校の学習カリキュラムを学ぶ中学3年生～高校2年生も適宜、演習実験や実験・実習を行う。また、講義型の授業だけにならないよう、グループワークや発表などの活動を取り入れる。  
 普段の授業においては、学習した内容の定着をはかるための振り返りを行う。振り返りは授業のまとめの小テスト(授業内実施)など、各科目担当で決めるが、過負荷にならないように注意する。  
 また、理科を学ぶ楽しさに気がついてもらえるよう、創意工夫する。

### 目標②

各学年で探究的な活動を計画・実践する。外部プログラムへの参加も推進する。

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

中学1年生は夏休みに自由研究を行い、各自がポスターセッションという形で発表する機会を設ける。高校2年生は化学探究に取り組む。化学探究では『実験すること』を必須のテーマに設定し、年間を通して指導することを目標とする。既習内容に関する問いから、仮設・実験計画・実験・考察・結論を通して、化学的に探究する力や論理的思考力を養う。その他の学年においても、実験・実習の考察内容を見直し、大学での実験レポート作成に通じる基盤となるように指導する。また、「発表を意識したレポートを作成する指導」を徹底する。  
 外部プログラムについては、探究的な活動を促進するために、積極的に企画・参加する。今年度は大学と連携した実験教室の開催や企業訪問を行う予定。

### 目標③

大学受験を見据え、どの学力層にも対応した指導を行う。特に上位者を養成するための方法を検討する。

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

高校1年生以下は共通テストなどで見られる思考力を重視した問題に対応するため、実験や視覚に訴える授業展開を強く意識する。また、基礎基本の定着を、問題演習や小テストを通して徹底する。  
 高校2年生は、3年生からの受験演習にスムーズに入れるように基礎学力の定着を図り、演習問題への着手を目指す。11月から始まる模試に対応できるよう、講習などで対策をする。  
 高校3年生は、受験生指導として幅広い成績層の中で志望校別・レベル別に対応する。特に上位層には講習や個々に特別課題を課すなどの対応を行う。  
 どの学年についても長期休業中の講習を充実させる。  
 教科会において、高校2、3年生の模試結果を定期的に検証し、成績向上のための具体策を策定する。

目標①	競技毎の到達度確認を充実させる
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
球技(バスケットボール、ハンドボール、バレーボール)のワークシートを作成して、課題を明確にして競技に取り組めるようにする。	
目標②	安全管理、熱中症対策
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
競技特性の怪我について、丁寧に説明をした上で取り組んで行く。(例:マット運動、後転を連続して複数回行わない)適宜休憩、水分補給を促すなど声掛けを積極的に行う。	
目標③	高校保健の探究活動を見直す
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
高校2年の探究活動を2学期から開始、発表に重点をおいて取り組めるようにする。	

目標①	個々の状況に合わせた教育を心掛け、生活習慣の基礎を身に付け、生徒本人の主体的な取り組みを促す。
<p>○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)</p> <p>①生徒間・生徒教員間の自由な意見交換を行い、芸術の主体的な構築に努め、より高いレベルの演奏・作品を目指す。          ②授業の内容に応じてタブレットなどのICTを使って、課題の理解を深めさせる。          ③教訓帰納を生かし、よりよいものを作り上げようとする探究心を高める。</p>	
目標②	芸術活動を通じて、目標に向かって諦めずに努力する姿勢を養い、達成感を通して豊かな心を養う。
<p>○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)</p> <p>①挨拶、姿勢、授業態度に留意し、芸術に取り組む基本的心構えを習得させる。          ②音楽・美術・書道それぞれの科目の中で課題に真摯に取り組み、目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢を養う。          ③高い目標を設定し、目標を達成するために仲間と協力し、その過程で生じる様々な問題を自ら解決していく力を育てる。</p>	
目標③	芸術の持つ力について探究し、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。
<p>○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)</p> <p>芸術が身近にある生活が自分と周囲の人々の心を豊かにすると共に、生きる力を与えることができることを実例を集めて考えさせる。</p>	

# 令和7年度(2025年度) 各部署重点目標と達成方法

## 家庭科

### 目標①

建学の精神「学芸を修めて人類のために」の実現のために、まずは自分の生活を進んでよりよいものにしていく力を付けられるようにする。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

各自の生活に応じた生活をより良いものにするための方法を、深く探究できるように、基礎的・基本的な知識や実技をしっかりと定着させる。生徒自身の学びを言語化させ、自信の学びを振り返る時間を設け、自己調整学習につなげる。

### 目標②

Society5.0における持続的なより良い社会の創造のために、社会生活の中で、知識だけでなく実践的な生活力も兼ね備えた人物に育てる。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

現在の生徒達は、いろいろな情報を手に入れる力と知識はあるが、実際に生活に活かせるだけの技量は乏しい。そのため、家庭科の学習の中で、自ら生活環境を整えることの大切さを知り、心身ともに健康が維持できるよう多くの実践の場を持たせる授業を行う。さらに学力は、知識のみでなく実践を伴ってこそ生かされることを、日々の生活の中で自ら気づかせ、授業以外の時間にも活用できる機会を設ける。

### 目標③

自らの幸せを紡ぐことのできる人材の育成を目指すために、「目標に向かって最後まで諦めず努力する姿勢」を培える場面を多様に配置する。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

その場をやり過ごせばいいという考え方では、最後には時間だけ過ぎるだけで何も残らない。授業中に、一つでも多くの技術を習得できるよう、前向きな声掛けをし、検定や試験を受けさせる。それにより検定や試験の合格者を増やし、成功体験を重ねることで、最後まで諦めず努力し、やり遂げたときの達成感を感じさせ、結果的に目標を達成することに繋がる。

目標①	ICTに興味関心を持ち、受動的学習から主体的学習に切り替える土台づくり
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>授業で取り扱うテーマに対して、生徒が興味関心を持ち、主体的に課題解決に取り組めるきっかけをつくる。</p> <p>具体的には、授業で出題する課題を、日ごろから興味関心を抱きやすそうなテーマを中心に選び、それらの活動を通じて、生徒が与えられたテーマではなく、自分の意志で、積極的に、より良い社会に向けて現在の様々な課題を解決していくことにつなげていく。</p>	
目標②	探究学習の強化と情報リテラシーの向上
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>プログラミングやプレゼンテーションなどを通じて、探究的な取り組みを授業に積極的に組み込む。</p> <p>また外部のコンテストや企業訪問なども企画し、より多くの生徒が積極的に参加できるようなプログラムを行う。日常生活での問題発見や課題解決を、授業で学んだ知識や授業の取り組みを通じて、より確実なものとし、日々の生活の中で活用できるよう情報リテラシーの必要性を実感させ、向上をはかる。</p>	
目標③	文理融合・文理横断的な学びの促進
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>知識や情報を組み合わせて新たな価値や理解を見出す学びを意識させる。ICTツールを活用した情報収集やデータ分析、作業の効率化などを授業の中で実践し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく能力を養う。具体的には、データや情報の正誤を見極めるために、データ収集、分析、活用といったプロセスの実践を強化する。</p>	



目標①	到達度評価・進級規定の検討を始めとする教務規定の見直し・改訂を実施する。
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>生徒の6年間の成長という視点のもと、令和6年度は高校進級規定および到達度評価の見直しを実施した。今年度は、大学入試の多様化への対応も踏まえて、高校における評定のありかたに関して課題を整理し、変更可能な部分から段階的に変更を行う。</p> <p>また、教務規定に関しても、細則や内規が増えている現状、および現在の制度と齟齬がある部分の存在などを踏まえ、明確な運用が可能になるように今年度改訂版の教務規定を作成する。</p>	
目標②	校務関係の業務に関し、システムの観点から改良・改善を行う。
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>定期考査・成績評価・調査書発行などの各種校務関係の業務に関しては、正確さが求められる。これらの作業の流れに関し、年間予定の調整・成績処理システムの作業のマニュアル改善および作業の流れの見直しを通し、正確かつ簡潔な処理の流れを作る。</p> <p>また、通知表受領書・教育実習申込のオンライン化をこの2年間実施してきている。各種提出書類の簡素化についても引き続き検討を続けたい。</p>	
目標③	教育旅行を始めとする各種行事に関して、6か年を意識して調整を行う。
○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)	
<p>現在実施されている教育旅行(中1 オリエンテーション・中3 平和環境学習旅行・高2 Global Study Tour)に関して、2027年度以降の方針策定に向けた協議を行う。また、芸術鑑賞教室などの演目調整等についても検討を進め、6か年の中で生徒に経験させたい内容を意識しながら整理を行う。</p>	

# 令和7年度(2025年度) 各部署重点目標と達成方法

## 生徒部

目標① 社会において誰からも応援される人、信頼される人を育成する。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

・常にポジティブなエネルギーであふれる「元気で明るくさわやかな」状態を保つように、式典・集会・保護者会などを通じて意識させ、関係者全員を「妻中平和」を実現する一員として自覚させる。  
 ・上記指導をおこなう教職員自身が生徒・保護者の模範となれるように、学校生活のあらゆる場面でルール・時間・約束を守る。また、生徒に対してポジティブな声かけをして、生徒の主体的な変容をうながせる存在になれるように、教職員自身も自己研鑽に努める。  
 ・校訓「恥を知れ」や「日常の五心」をもとに、校内での挨拶指導や登下校指導、学級・学年指導や学校行事など、学校生活のあらゆる場面を通じてルールやマナー、モラルの重要性を理解させ、社会的に信頼される人になるように、また誰に言われなくてもそれができるように継続して指導する。

目標② 多様性あふれる社会の中で、自主的・主体的に行動できる人を育成する。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

・グローバル社会において、多様性を受容すること、他者に対する思いやりと許容を持てることが必須であることを学校行事などにおいて体感させる。  
 ・多様な人間関係の中で多くの学びが得られる場として、「部活動に関わる活動方針」を踏まえた上で、各部活動をバランス良く実施する。部活動においてもポジティブな声かけと保護者との連携で、心理的・肉体的安全を最優先に活動することを心がける。  
 ・各教科で探究的な授業を心がけ、教えられる学びから自走する学びにシフトさせる。建学の精神である「学芸を修めて人類のために」を体現できるような学びの軸を獲得させる。

目標③ 学校生活における安心・安全を確保して、生徒たちを健全に成長させる。

○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

・インターネットやSNS、いじめに関わる知識や考え方を、HRや生徒集会で周知する。講演会などで専門家の意見も聞かせながら、そのリスクを自分ごととして理解させる。  
 ・学校生活に関するアンケート調査などで校内のいじめなどの早期発見に努め、適時的確な対応を心がける。  
 ・学校と家庭との連携を密におこない、信頼関係を構築・継続する。さまざまなストレスや不安を抱えた生徒たちをケアするために、保健室やカウンセリングルームの環境を充実させる。  
 ・熱中症やハラスメントに対する研修などで各種事故の防止に努める。  
 ・ライフプラン講座(性教育講演会)などを通じて、「今」の思春期課題を含め、大人として生きていく中で必要な正しい知識を得るとともに、「自分を大切にすること」について関心を持たせる。

# 令和7年度(2025年度) 各部署重点目標と達成方法

## 進路部

### 目標① 建学の精神「学芸を修めて、人類のために」を体現する生徒の育成

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- ・ 外部機関の分析結果に基づき、中学2年間で「教訓帰納」を意識的に指導に組み込み、「自ら選択・決定できる生徒」を育成する。中学3年次からは「地球市民の一人として自分が学ばべきこと」の検討を促し、高校ではその学びを実現・発展させるために必要な国公立大学や上位私立大学への進学を能動的に目指す生徒の育成を全校的に実践する。
- ・ 中高一貫校としての強みである、中学からのキャリア教育や進路指導を充実させる。外部機関との一層の協働を促進し、学習や進路に関する様々な機会を生徒に提供する(高大連携講座や進路・学習ガイダンス、大学説明会など)。また、モデルケースとして、社会で活躍している卒業生をチューターとして採用し、各学年の学習・進路指導に参入させる。

### 目標② 学校全体の進路指導力向上

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- ・ 外部機関に協力を仰ぎ、生徒の学習や進路に関するデータを一元化する。個々の教員の経験だけでなく、データに基づいた展望を示すことができる指導を目指す。
- ・ カリキュラム・ポリシーにある「Challenge」「Construct」「Create」に沿った、中高6年間の学習・進路シラバスを作成し、全校的に共有する。
- ・ 校外講師の招聘、校外研修情報の共有、授業アンケートや研究授業の実施など、教員の自己研鑽の場を数多く提供する。また、進路情報が教員全体に意識・共有されるような仕組みを整備する。
- ・ 進路指導ソフトや年内入試対策情報サイトを駆使し、生徒の可能性を広げることができる教員を育成する。

### 目標③ 成績上位層の生徒の更なる育成と成績下位層の生徒のサポート徹底

#### ○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)

- ・ 各学年の学習・成績状況を分析・検証する機会を増やし、定期的な指導内容の微調整を行う。また、日常的に進路部主幹が学年主任や学年進路担当教員、教科主任からの聞き取りをおこない、各学年の指導を常に把握・微調整を行う。
- ・ 生徒が担任だけでなく、教科担当者と面談することを全校的に習慣化し、生徒に好ましい学習方略を早期に身に付けさせる。
- ・ ホームルームや放課後延長学習、平常講習や長期休業中の講習など、授業以外の様々な学習機会を生徒たちに提供することで、生徒が学校で安心して学習に取り組める環境を整備する。また、模試や考査の下位層に対する補習はもちろん、上位層に向けた特別講習や課題を提供する。

目標①	受験者増を目指し、定員確保にむけ学校全体で広報活動に取り組むとともに、より多くの受験生とその保護者に中野校の教育の特徴・独自性を積極的に伝える。
<p>○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)</p>     <p>1. WWL拠点校およびユネスコ・スクールとしてのグローバル教育の実践と取り組みを、アドバンストコースの生徒募集にも積極的に発信する  2. 学校見学、オープンディなどにおいて、アドミッションスタッフが活躍する機会を活用し、大妻中野生の良さを受験生が直接感じ取る機会を設ける  3. 塾訪問・学校説明会等を教職員全体で行う</p>	
目標②	情報発信を効果的に行い、より多くの受験生とその保護者に学校を知ってもらう。
<p>○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)</p>     <p>1. ホームページの刷新を図り、スクールミッションに基づいた入試問題を通して、本校の教育にける探究活動、主体的学習への取り組みを周知する  2. オンサイト・オンラインの特性を活かした広報戦略、募集活動イベントを設定する  3. SNSを利用した発信を積極的に行い、学校の様子を伝える</p>	
目標③	海外帰国生およびGLC生の受験者増、入学者増を目指す。
<p>○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)</p>     <p>1. シンガポール会場入試・オンライン入試を継続実施し、より海外在留中の受験生に本校を受験する機会を設ける  2. 転入・編入生などの多様な生徒を受け入れる体制、個に応じた柔軟な教育体制や、GLCの教育実績を示すことで、入学者数増につなげる  3. 国外の広報活動において、海外塾のネットワークの有効利用に努める</p>	

目標①	Implementation - Beyond School & Inquiry Based Learning as a WWL Hub
<p>○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)</p> <p>本校の特色あるBeyond School 活動を活用した生徒の主体的な学びの研究と実践</p> <p>① WWL拠点校として、そのネットワークを活かし、連携、協働する学校、機関、大学のプログラムや研究発表の場に生徒が積極的に参加し、その成果を、授業や課外学習などにおいてフィードバックできる機会を設定する。</p> <p>② ユネスコ・スクールの各種大会、研究会などへ、それぞれの授業単位で積極的に参加し、発表し、他校と連携し、学び合う機会を奨励する。</p> <p>③ フロンティア・プロジェクト、S-TEAMなど、本校独自の生徒主体の活動チームや個々の生徒の先進的な取組をさらに進化、外部機関との一層の協働を促進する。</p>	
目標②	Support for admission to domestic and overseas universities for WWL context
<p>○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)</p> <p>今後変化する大学入試指導への対応と実践</p> <p>① 大学入試がよりグローバルな形へ変化していることを踏まえた指導を検討、実践する。</p> <p>② 国際併願、海外大学への進学指導をより一般化させ、エッセイ、志望理由書、インタビュー面接で試されるコンピテンシーを生徒が高められる研究を実践する。</p> <p>③ 英語4技能試験が、大学入試のキー・コンピテンシーになっていることへの対応を一層、進める。</p>	
目標③	School Promotion on our unique features and school mission as a WWL Hub
<p>○目標達成のための具体的方策(学校全体の重点目標を踏まえて)</p> <p>スクール・ミッションに基づいた中野校の教育の特徴・独自性を積極的に広報</p> <p>① 文部科学省事業WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)拠点校およびユネスコ・スクールとして、先進的で特色あるグローバル教育の実践と取り組みを、グローバルリーダーズコースだけでなく、アドバンストコースの生徒募集にも積極的に発信する態勢を強化する。</p> <p>② 地球市民的視野を持ったリーダー育成を目指し、教科・学年・分掌主体で取り組んでいる内容を、横断的につなぎ、共有、発信できる仕組みを構築する。</p> <p>③ 国内生、帰国生、転入・編入生などの多様な生徒を受け入れる体制、個に応じた柔軟な教育体制が進路実現につながっている学校であることをさらに周知する。</p>	